校長室だより～燦燦～ №３９４

# 終業式

2021.7.20

学校での「働き方改革」は進んでいる。中学校の場合、長時間労働となる要因の一つであった部活動に関して、平日２時間、休日３時間、土日のどちらかは休み、加えて平日にも１日休みを入れるというガイドラインがある。私が部活動の顧問をしていた頃と比べると、隔世の感がある。

今では慣れてきたが、本校では、毎週、月曜日の放課後は、職員室の雰囲気が違う。多くの先生方が自分の席におり、退勤するのも早い。そうである。月曜日は、部活動休養日なのである。週の初めをゆったりした中でスタートさせることができる。多くの部は、土曜日に部活動をやり、日曜日を休みにしているため、生徒からすると、日、月と部活動は休みとなる。

これらは、目に見えて改革が進んでいる部分である。これ以外はというと、デジタル校務システムが導入され、校務の効率化が進んでいる。これもありがたいのだが、先生方の実際の労働時間はというと、なかなか改善されない。なぜなら、やるべきことが、どんどん増えていくからである。

不登校生徒や別室登校の生徒がいれば、家庭訪問をしたり、毎日、記録を残したりと、学校に来てくれることを願いながら仕事を進めている。先生方の朝も早い。先生方には、生徒が登校してきて帰るまでの責任がある。本来の出勤時間、退勤時間とはいかない。人を相手にしているのである。それも、中学生とはいえ、まだまだ大人とはいえない子どもである。

会議の効率化を図ったり、回数を減らしたりはできる。昨年度、今年度とコロナ禍により、行事等がなくなり、その分の業務は減っている。だが、これは、手放しでは喜べない。先生方の業務が減ったとしても、生徒たちの貴重な体験や思い出までもなくなってしまっては、生徒の成長に関わる重大事となる。

ここで考えたいことがある。それは、現在のコロナ禍は、いずれ下火になる。そうなったときに、すべてを元に戻すのではなく、今までは、当たり前にやっていた「〇〇総会」などの出張が、本当に必要なのかどうかの検討を加えるということである。よくピンチはチャンスといわれる。今は苦しいかもしれないが、見直しのチャンスでもある。このチャンスを逃してはいけない。

働き方改革は進んでいるとはいっても、学校というところは、先生方の献身的な働きがなければ成り立たない。それが現実である。今日は、第１学期終業式の日である。明日からは、夏休みとなる。４月からの先生方の働きぶりを思い返すと、自然と頭が下がる。

夏休みとはいえ、仕事は山ほどある。ただ、授業が進まない分、じっくりと準備を進めることができる。普段は、なかなか読めなかった本も読むことができるかもしれない。日常では、十分ではなかったかもしれない家族との時間も、少しは余裕をもってとれることだろう。

先生方にも、ぜひ夏休みだからこそのことを進めてほしい。それが、２学期以降の教育活動にも反映されてくるのではなかろうか。先生方が、少しでもリフレッシュをして、エネルギーを蓄えて、元気に働いてくれることが一番である。先生方が、それぞれの持ち味を生かしながら、はつらつとしていてくれるだけで、教育的効果は上がると考える。野田中学校の先生方に限らず、学校で働く先生方、１学期間、お疲れ様でした。